

## 令和4年度狛江市市民意識調査 単純集計結果の主なポイント

2023.05.12

## 1. 市民一般調査

※問⇒事務局からの意見、問⇒コンサルからの意見、◎問⇒事務局、コンサル同意見

## ■社会的孤立・孤独

- 問12 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度が（直接会う、電話、書面、SNS、メール等のいずれも）週に1回以下を「社会的孤立」該当者とした場合、「社会的孤立」は5.7%（集計暫定値）となっている。
- 問13 愚痴を聞いてくれる人（情緒的支援者）が「いる」は82.1%、「いない」は9.0%、「そのようなことでは人に頼らない」が7.7%、「無回答」が1.2%となっている。
- 問13 喜びや悲しみを分かち合う人（感情的共有者）が「いる」は87.9%、「いない」は6.3%、「そのようなことでは人に頼らない」が3.8%、「無回答」が1.4%となっている。
- 問13 頼れる人が「いる」が75%を超えているものもあれば、①子どもの世話や看病、②（子ども以外の）介護や看病、⑥いざという時のお金の援助、⑩成年後見人等を頼むことは50%前後となっている。
- 問14 行政機関やNPO等の民間団体から支援を「受けていない」は90.8%、うち「支援の受け方がわからないため」が9.1%となっている。
- 問16 「地域等の会やグループに参加しているか（町会・自治会、ボランティア、宗教団体、PTAや保護者会、趣味の会やスポーツクラブ、職場内の会やグループ、同じ学校出身者の会やグループ、地域サロンや居場所等）」について、「参加する予定はない」の割合が高く、会やグループに参加している方や希望されている方は少数派となっている。
- ◎問17 さみしい気持ち（孤独感）を「とても感じる」を「孤独」該当者とした場合、「孤独」は4.7%となっている。

## ■感染症によるつながりの低下

- ◎問18 新型コロナウイルスの影響で、人と直接会ってコミュニケーションをとることが「減った」が79.4%である一方、人と直接会わずにコミュニケーションをとることが「減った」が8.1%となっている。
- ◎問19 新型コロナウイルスの影響で、家族以外の親しい人との関係が「やや悪くなった/悪くなった」が29.7%、地域・社会とのつながりが「やや悪くなった/悪くなった」が34.2%となっている。

## ■ひきこもり

- **問 21** 回答者本人が「ひきこもり」と認識している割合は全体の1.8%（全国値1.5%程度）となっている。なお、回答者の家族が「ひきこもり」と認識している割合は全体の3.0%であり、自覚していない「ひきこもり」の方を含めると1.8%より増える可能性がある。
- **問 23** ひきこもり状態の方の人との交流状況は、「家族ともほとんど会話がなない」が11%、「家族と会話はするが、家族以外の人との交流がなない」が半数、「SNSやインターネットで人と交流をしている」「趣味のために人と会うことはできる」「近隣住民とは交流がある」が合わせて1/3である。
- **問 26** 「ひきこもり」となったきっかけは、「精神的な疾病や障がい」が29.2%、失業・退職」が23.3%、「きっかけがわからない」が17.5%となっている。

## ■再犯防止について

- **問 29** 犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うかについて「どちらかといえば思わなない」が25%、「思わなない」が22%となっている。
- その理由については、「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」が51%、「犯罪をした人と、どのように接すればよいのかかわからないから」が47%、「犯罪をした人とかわわりを持ちたくないから」が42%、「時間的余裕がなないから」が41%となっている。
- **問 31** 再犯防止のために具体的に必要だと思うことについて「仕事と住居を確保して安定した生活基盤を築かせる」58%、「気軽に相談できる相談先を設け、孤立させない」が48%、「刑事司法関係機関による一人ひとりの問題性に応じたきめ細やかな指導や支援を充実する」が44%と上位3位であった。
- **問 31** 再犯防止のために市は何をするべきだと思うかについて「犯罪をした人に対する支援ネットワークを作り社会的孤立を防ぐ」が50%、「犯罪をした人を地方公共団体の機関や協力雇用主等で雇用する」が35%、「犯罪をした人の住居確保に向けた支援を行う」が33%と上位3位であった。

## ■避難行動要支援者支援について

- **問 36** 災害が起こったときに「協力できない又は難しい」と回答された方の理由が「近所付き合いがあまりない」が53%であった。
- **問 37** 避難行動要支援者の対策として行政に期待することは「地域での協力体制づくり」が44%であった。

## ■地域の支え合いについて

- **問 38** 普段の近所づきあいについて「会えばあいさつをする程度」が44.0%、「ほとんどない」が11.3%となっている。
- **問 39** 地域における問題や課題解決に向けた、住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が「必要だと思う」が70%であった。

- ◆ 問 40 お世話役としての地域づくりへに「参加したい」が 23.4%、「参加しない」が 23.7%、「わからない」が 51.7%となっている。

## 2. 子ども市民調査

### ■心配事や悩み

- **問4** 現在、悩んだり困ったりしていることは「特にない」が54.5%、「進路や将来のこと」が26.5%、「成績のこと」が22.0%、「友だちとの関係のこと」が14.3%となっている。心配事や悩みを聞いてくれる人について「父親・母親」が73.0%、「友達」が65.8%である一方、「そのような人はいない」が6.9%、「無回答」が1.3%となっている。**問5**

### ■居場所、重要なこと

- **問6** ほっとできる居場所について「自分の家（リビングなど）」が68.1%、「自分の部屋」が60.8%である一方、「ない（わからない）」が5.0%、「無回答」が0.3%となっている。
- **問7** 心だんの生活の中で特に重要だと思うことについて「自分のやりたいこと（スポーツ・音楽・ファッション・趣味など）に取り組めること」が46.3%、「家族と一緒に仲良く暮らすこと」が39.3%、「暴力や言葉や態度で傷つけられないこと」が30.9%となっている。

### ■家族のケア

- **問8** 家族の中にあなたがお世話をしている人が「いる」（ケアラー）が3.3%（小学生の5.0%、中学生の1.4%）となっている（中学生の全国値は5.7%）。
- **問15** ケアラーのうち、お世話にすることで何らかのつらさを「感じる」は11.2%、「無回答」は16.3%となっている。

## 3. ニーズ調査

### ■調査対象者

- **問1(3)** 調査対象者のうち「要支援1・2」が36.9%となっている（国の手引きに従うと要支援1・2は5.9%；狛江市の要支援認定率）。以下の項目で全国値をいくつか引用しているが「要支援1・2」の割合が異なるため単純比較できない。
- 「現在、何らかの介護を受けている」が17.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が14.3%となっている。

### ■社会的孤立

- **問1(1)** 高齢者の一人暮らしは32.9%となっている。
- **問2(7)** 「週1回外出する/ほとんど外出しない」の閉じこもりリスク該当者は、25.1%（令和元年度全国値16.4%）となっている。
- **問3(8)** 食事をともしる機会に関して「年に何度かある/ほとんどない」の孤食該当者は、26.0%となっている。
- **問6(1)(3)** 情緒的支援者が「いる」は89.1%（令和元年度全国値93.9%）、手段的支援者が「いる」は85.9%（令和元年度全国値91.8%）となっている。

#### ■社会参加や生きがい

- ◆ **問4(18)(19)** 生きがいが「ある」が49.1%、「思いつかない」が37.7%となっている。趣味が「ある」が67.8%、「思いつかない」が24.4%となっている。
- ◆ **問5(2)** 健康づくり活動や趣味等の地域づくり活動の参加意向について「是非参加したい/参加してもよい」が48.9%（令和元年度全国値52.9%）となっている。
- ◆ **問7(1)(2)** 主観的健康観について「とてもよい/まあよい」が67.4%（令和元年度全国値75.6%）、主観的幸福感について「8点以上」のが高いが46.1%（令和元年度全国値46.3%）となっている。

#### ■医療・終末ケア

- ◆ **問7(8)** 信頼できるかかりつけ医が「いる」は79.7%となっている。
- ◆ **問9(1)** 自分の人生の最終段階が近づいたときを過ごしたい場所は「自宅」が44.3%、「わからない」が23.5%、「病院やホスピス等の終末期ケア専門の施設」が16.9%となっている。